

広島大学短期交換留学プログラム 派遣留学報告書

記入日 2018年 7月 6日	
派遣プログラム	<input checked="" type="checkbox"/> HUSA <input type="checkbox"/> USAC <input type="checkbox"/> UMAP
留学先大学	北京師範大学 大学 (国名：中華人民共和国)
所属学部・学科等名	漢語文化学院
在籍身分	短期交換留学生
留学期間	2017年 8月 28日 ~ 2018年 6月 16日

1. 留学するまで

留学への志望動機・派遣先大学を希望した理由	<p>大学入学と同時にベーシックとインテンシブの二種類の授業で中国語を学び始め、幼いころから書道をしていて漢字に慣れ親しんでいたこともあってどんどん中国語の魅力にはまっていきました。その後STARTプログラムやHUSA 短期研修に参加し、台湾や重慶を訪れました。中国語で中国語を学ぶという新鮮な体験や、実際に人々の生活や現地の活気に見て触れた経験から「もっと中国で中国語を学びたい、もっと中国について知りたい」と思うようになり、長期間現地に滞在できるHUSAプログラムへの応募を決めました。</p> <p>教育の質がとても高いということを知っていたので中国語の語学力を高めたい自分に合っていると思ったのに加え、ニュースで取り上げられるほど深刻な大気汚染は今どれほどなのか、また一国の首都の人々の暮らしはどのようなものであるのか、などのことにも興味があったので、中国の首都北京にある北京師範大学を留学先に選びました。</p>
留学準備を始めた時期 (応募する何か月前ですか?)	<p>応募締切の1、2週間ほど前から急いで提出書類の準備を始め、締切日当日に応募しました。</p>
事前準備について (どのような準備をしたか、しておけばよかったか)	<p>実は締切日直前までHUSAプログラムに応募すべきかどうかすごく悩んでいました。というのも、留学時期が早ければ早いほど語学学習には良いと聞き、留学にはすごく行きたいという気持ちはあるものの、2年次に長期留学すると帰国後に就職活動と卒業単位取得のための授業が同時並行になってしまいかなり大変なのではないかと心配したからです。だからと言って3年次に留学すると就活に間に合わない。その当時は「4年間で卒業するんだ」という考えに固執してしまっていて、どうすればいいのかが悩み、なかなか応募に踏み出せませんでした。しかしこの相談を聞いてくださった留学アドバイザーの方が自身の体験談から「自分は2年生で長期留学してよかった」とおっしゃっていたことや、所属する経済学部で2年次に留学する人がまぼおらず先例が無かったことなどから、ならば挑戦してみようと2年次での留学を決意しました。</p> <p>今思えば、応募締切直前にこうも悩むのではなく、自分の単位取得状況や卒業後の希望する進路を把握し大学生生活のプランをしっかりと立てた上で留学の応募を決めたらよかったなと思います。加えて、もっと柔軟な考えを持っておけばよかったなとも思います。私は4年間で卒業になぜか固執してしまっていたけど、5年間かけての卒業という選択肢も一つの手です。また就職活動も企業によっては留学生向けに行ってくれるところもあるということを知りました。留学応募前に一人でも多くの経験者の話を伺ったり、自分で留学や進路についての情報をしっかり集めたりすればここまで悩む必要もなかったかなと思っています。</p>

2. 渡航について

ビザについて	ビザの種類：X1 ビザ（長期留学ビザ）
	ビザ申請先：西日本日中旅行社 広島支店
	提出書類：①パスポート原本 ②証明写真1枚 ③査証申請用紙 ④入学許可証原本 ⑤JW201 または JW202 (詳細は西日本日中旅行社のHPにも載っていますのでそちらをご覧ください)
	手続きに要した日数：西日本日中旅行社に申請後、約2週間でビザを取得しました
その他必要な事前手続き	宿舎のオンライン申請、健康診断など (北京師範大学から送られてきた入学手続きのしおりに従って進めていきました)
出国年月日	2017年8月28日
経路(往路)	広島空港発(大連経由)北京首都国際空港着
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有(大学関係者・その他) <input type="checkbox"/> 無
到着後オリエンテーションの有無・期間・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 有(期間：現地到着日から授業開始日までの約一週間程度 内容：大学の登録手続、入学式、クラス分けテストなど) <input type="checkbox"/> 無
帰国年月日	2018年6月16日
経路(復路)	北京首都国際空港発(大連経由)広島空港行

3. 留学費用について

支出額	総額	約774,000		円(最低でもこれくらいはかかるだろうという目安です)
	内訳	渡航費(往復)		約50,000
ビザ申請手数料			約16,000	円
予防接種費用			0	円(打ちませんでした)
保険料			約113,000	円
教材費(授業料以外の学費)			約12,000	円(二学期分の合計) *自分の割り振られたクラスによって教材費が異なります
宿舎費(住居費)			約320,000	円 *住む宿舎、滞在日数によって宿舎費が異なります
光熱費			0	円(宿舎費に含まれています)
食費			約25,000	円/月(1日50円で計算) *食べる場所や量などにより、人によって異なると思います
通信費(インターネット・携帯)			約3,400	円/年(SIMカード代)
交通費(宿舎-大学間)			約1,000	円/月(学内Wi-Fi代)
交際費			0	円(学内に宿舎があるので不要です)
その他(費)				円
(費)			円	
(費)			円	

4. 授業・修学について	
授業の概要について (カリキュラム、プログラム、履修した科目、時間数、履修形態等)	<p>現地に到着してから数日後にクラス分けテストが実施されます。そのテストの結果をもとにレベル別のクラスが振り分けられます。</p> <p>授業はリスニング、ライティング、会話、新聞記事読解の4つで、クラスごとに時間割が決まっています。各時間割にもよりますが、1日の授業は大体2コマ程度です。1コマ90分で、まず45分間授業を受け、10分間の休憩をはさんでからまた45分間授業を受けます。授業と授業の間は20分の休憩時間があります。教科書は大学で指定されたものを購入し、授業もその教科書と教科書に沿ったワークブックの2冊を使用しながら進められます。</p>
単位互換希望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
授業・勉強についてのアドバイス (留学前の履修、留学中、単位取得等)	<p>相手の話すスピードが速かったり自身の語彙力がまだ少なかったりするせいで、授業が始まって最初のうちは先生や同じクラスの友達が何を言っているのか聞き取れないことが多いかもしれません。しかし言語とは慣れれば勝ちで、授業を1週間、1カ月、数か月受けているうちに気付けば聞き取れるようになっていきます。なので中国語の面で不安に思う必要はなく、むしろ毎回授業を受けているうちに自分の語学力の成長をひしひしと実感できるはずですよ。</p> <p>授業中には積極的に発言すると思います。クラスには様々な国からの留学生がいるので、どの授業でも自分の国はどうかを答える質問が多くなされます。もし伝えたいことが上手く言えなくても心配することはありません。北京師範大学の先生方はこれまで何人もの留学生を相手に教えてきたプロなので、こちらの言いたい内容を分かってくることが多いです。文法などの言い間違いや発音等はあまり気にせず(先生がきちんと指摘してくれます)、思い切って発言することが語学力を伸ばすにも理解を深めるためにも良い方法だと思います。</p>
日本と異なる授業形態などにおける困難や挑戦(ティーチングスタイル・先生と学生の関係性など)	<p>一学期目のクラスはクラス分けテストによって決められますが、二学期目にはこのテストはありません。学校側が自動的にクラスを振り分けてくれています。</p> <p>一学期目も二学期目も、始まってから2週間ほどは様々なクラスの授業を受けることができます。割り振られたクラスのレベルが自分に合っていれば問題ありませんが、4種類の授業を受けてみて「この授業は簡単すぎるかな」「この授業は自分には難しすぎるな」と少しでも感じたら、上や下のレベルのクラスの授業もこの期間中に受けてみることをお勧めします。全授業、または授業ごとにクラスを変更することができます。割り振られたクラスよりも上のレベルのクラスを希望する場合、一学期目はクラス分けテストとは別にもう一度テストを受ける必要があります。二学期目の場合は一学期目の成績が学部の定める基準に達していればテスト無しで上のレベルのクラスに変更できます。下のレベルのクラスを希望する場合は一学期目も二学期目もテストを受ける必要はありません。</p>

5. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> その他()
住居の広さ	約 27 m ² 同居人の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(1人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所(共同) <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input checked="" type="checkbox"/> その他(ベッド(シーツ、枕、掛布団)、電気ケトル、テレビ、勉強机(鍵付きの引出しが机についていました)、椅子、小さめの本棚、電気スタンド、クローゼット(ハンガー数本が用意されています)、小さめの冷蔵庫)
住居費	4ヶ月当たり 1日当たり (現地通貨) 75元(約1,250円)

留学先での住居全般に関するアドバイス	<p>留学生用の宿舎はいくつかあり、1人部屋がある宿舎もありますか数少なく、基本どの宿舎も2人部屋だと考えてもらえればと思います。住居費は宿舎ごと、また宿舎の部屋のタイプごとにそれぞれ異なります。台所はどの宿舎も共同です。</p> <p>自分の入寮日にルームメイトが既に部屋で生活していればその人が買ってくれているので問題ないのですが、宿舎の部屋のトイレトーパーは自分達で準備する物です。もし入寮日に自分の方が早く到着したらトイレトーパーは用意されていないので、数日分でもいいのでポケットティッシュなどを持って行っておくと役立つと思います。</p> <p>住居費は現金での支払いしか受け付けていないので、留学前に一学期分の住居費のお金も含め、余裕を持った金額を日本から持って行く必要があります。</p>
(2) 医療について	
保険の加入先	<input checked="" type="checkbox"/> 本学指定の保険 <input type="checkbox"/> 留学先大学指定の保険 <input type="checkbox"/> その他 ()
保険の補償内容	補償額 死亡：1千万 円、 入院：1億 円 その他 (保険のパンフレットなどをご確認ください)
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 (種類： 回数： 医療機関名：) <input checked="" type="checkbox"/> 無 (私は何も打ちませんでした)
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	<p>北京のいくつかの病院は海外保険に対応しているので、海外保険に加入していれば一銭も払うことなく治療を受けることができます。私は日本に劣らずしっかりした治療だと感じました。</p> <p>中国は西洋医学ではなく漢方などの東洋医学の方が主流の国です。私は留学中に一度東洋医学の手法で治療をされたことがあります。体に合わず逆に体調を悪化させてしまいました。東洋医学での治療の効果は人によりけりだと感じました。</p>
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	<p>私は留学の1カ月ほど前に発症したじんましんが治らず、中国でも薬をもらうために月に一度は病院に通っていました。しかし、海外保険にも規定があるようで、同じ病気の治療は一定期間しか補償できないそうです。私の場合は最初の治療から半年後にそのことを病院の方に伝えられ、その後は薬局で薬を自己負担で購入していました。持病や歯の治療など、海外保険では補償できないものもあるということをきちんと把握し、気を付けた方がいいと思います。</p> <p>また、中国人の友達や先生に「屋台や道端で売られている食べ物は買って食べない方がいい」と教えてもらいました。あまり衛生状態が良くないものが多いので、きちんとお店や食堂で食事することをお勧めします。</p>
(3) 危険を感じた地域、状況、安全管理において注意したこと	
<p>中国のお寺を訪れると大抵入口付近などに物乞いの人たちがいます。彼らは腕や足が無いことが多く、中には目を思わず背けたくなってしまうような姿の方もいます。ですが、「かわいそう」などと思ってもお金は渡さないようにしてください。</p> <p>また、私は道端で急に「お腹が空いているがお金がないので食べ物を恵んでほしい」とおばさん2人にしつこく言い寄られた経験があります。その人たちは見るからにお金には困っていないような服装をしており、こちらが支払う立場なのに自分達が希望するお店にぐいぐい連れて行こうとするので怪しいと察しました。その際はわざと「こっちのお店の方が美味しそうですよ」と別のお店に連れていき、少しの情けで茹でとうもろこしを買ってあげた瞬間、彼女達はそれを奪い取ってどこかへ逃げていきました。</p> <p>常に注意してほしいことは、中国はどこに行ってもすりが多い国だということです。留学中に会った日本人留学生の友人は冬休みに雲南を旅行中、ポケットに入れていた携帯電話を盗まれたと言っていました。</p> <p>どの国で生活していてもそうですが、いつ何が自分の身に起こるか分かりません。何か起こった際にはパニックに陥りやすいとは思いますが、そういう時こそ深呼吸をして一旦落ち着き、冷静に客観的に物事を見てみてください。特に現地到着後数か月経って、ある程度現地での生活に慣れてきた頃は、ふと気持ちが緩み安全管理を怠ってしまいがちです。毎日神経質になっても良くないですが、日頃頭の片隅にでも「海外にいるんだ」という意識を持って生活をした方がいいかと思います。</p>	
(4) 食生活についてのアドバイス	

中国の食事は油が多く使用されており、基本どの料理も油っこいという印象を持ちやすいと思います。また、辛い料理は日本と比べて桁違いに辛いです。唐辛子だけではなく山椒なども使っており、辛いというよりは痛いという感覚です。中国の料理は大体どのお店でも数段階あるうちから辛さを選べるので、中国本場で辛い物を食べたことが無い方は、たとえ辛い物が得意な方であっても始めのうちは辛さ控えめから始めた方がいいと思います。辛さは胃を刺激するので、食べたその日や翌日にお腹を簡単に壊しやすいです。ひどいと数日間下痢、なんてこともあります。

果物が好きな方は中国にいるうちに様々な果物を食べてみるといいと思います。中国の果物は種類が本当に豊富で、しかもとても安価です。日本では高くてなかなか食べる機会がないものでも、中国でならたくさん食べられるのでお勧めです。

(5) 気候・服装についてのアドバイス

北京は乾燥がきつい場所です。夏は湿度が高い日本に比べるとからっとしていて気温が高い割には過ごしやすいのですが、秋になると急に気温が下がり寒くなります。同時に乾燥の影響で肌がカサカサしやすくなります。冬の外はとても寒く、朝晩は氷点下、日中も気温は1桁というのが当たり前です。湿気がとにかかないので雪はほとんど降らないのですが、冷たい強風が毎日のように吹き荒れます。しかし、部屋の中は「暖気」という中国北部独自の暖房機器のおかげで暖かい、いやむしろ暑いぐらいです。

私は留学前に日本のドラッグストアで購入したワセリンやハンドクリームを北京で使っていました。そのおかげか、肌がカサカサしたりひび割れたりすることはあまりありませんでした。寒さは4月の中旬くらいまで続くので、半袖よりも長袖の服を気持ち多めに持って行くといいと思います。現地で寒さ対策の服や靴を買うというのも良い考えだと思います。

(6) 学内外の施設・設備環境について（インターネット環境含む）

北京師範大学には6つの食堂があり、食堂の他にもいくつかレストランがあったり、大学周辺にもごはん屋さんが多かったりするので、食事に関して飽きることはあまりないと思います。学内には食堂以外にも、日用品・文房具・食品などを売るスーパーが3つ、また果物屋さんや郵便局、美容院まであります。大学内で生活上必要なものは大概揃います。

広大と同じように、北京師範大学も学生証が電子マネーカードとしての機能を持っています。スーパーは現金払いや携帯電話での支払いも可能ですが、食堂だけはほぼ全てのところで学生カード内の電子マネーでの支払いしか受け付けていません。学内はWi-Fiが完備されており、月60元の支払いで通信料無制限のインターネット使用ができます。このWi-Fiの支払いも学生カード内の電子マネーでのみの支払いです。

(7) 現地学生や地域との交流について（どのような、機会・きっかけがありましたか？）

北京師範大学には日本人会という、北京師範大学の日本人学生が私達のような交換留学などで来た留学生の大学生活をサポートしてくださる団体があります。そこが中国人学生との交流会を開催することがあるので、それに参加するのもいいと思います。また、北京の他の大学でも日本人留学生と中国人学生との交流会を開催していることがあるので、そちらにも参加してみるといいと思います。

北京師範大学には日本語学科がありますが、その学部でなくても独学で日本語を学んでいるという中国人学生はとても多いです。私が学内のマクドナルドで食事をしていた時に、たまたま隣の席に座った中国人学生が日本語の教科書を開いて勉強を始めた、ということがありました。話しかけてみると彼女は日本語学科の学生ではなく、独学で日本語を学んでいるという学生さんでした。その偶然の出会いから、私が帰国してからも交流を続けるほどの仲になりました。

授業に出ているとクラスの様々な国の友達と仲良くなる機会はたくさんあります。しかし、授業だけだと中国人学生と知り合う機会はほとんどありません。自分から話しかけてみるなど積極的になってみてください。相手は日本のことにもすごく興味を持っているので、きっと優しく日本人留学生を受け入れてくれると思います。

(8) 習慣やマナーの違いによる対人関係等、注意すべきこと

日本人はよく物事を相手に曖昧に伝えがちですが、中国人ははっきりと伝えます。私は久しぶりに会った中国人の友人に開口一番、「太った？」なんて言われたこともあります。なんと遠慮がない国の人なんだ！と憤慨してはいけません。はっきりと且つ大きな声で相手に伝えないと、もしぼそぼそと又は曖昧にしゃべっていると中国人には「この人は私に興味を持ってくれないのだ」「一体この人は何が伝えたいのだろう」と思われてしまいます。中国人と話すときは思い切っていつもよりも大きめの声で、且つ言いたいことははっきりと伝えるようにしましょう。ですが、相手を傷つけるような言葉はもちろんはっきり言ってはいけませんよ。

(9) 日本から持っていくべきもの、持っていくべきでないもの

日本のお菓子は中国のみならず、クラスの様々な国の友達に好評でした。ポッキーやプリッツ、きのこの山など中国でも販売されているものもありますが、日本の土地ごとの銘菓は当然ながら日本でしか食べることができません。日本や自分の出身地を紹介するいい機会にもなるので、自分の故郷の銘菓を持って行ってみるのはいかがでしょうか。

(10) その他生活等に関して参考となる情報・アドバイス

北京師範大学には日本人会という団体があり、日本人留学生の生活上のサポートを全面的に行ってくださっています。何か現地で困ったことやトラブルなどに遭遇したら、決して一人で抱え込まず彼らに相談してみてください。日本人会の方々はこれまで何人もの留学生のサポートをされてきているし、また事態が深刻な場合には大学の留学生事務室の先生方とも連絡を取ってくださるなど各方面から問題解決のために動いてくださいます。生活上のこと、勉強のこと、どんな些細な悩みでも構いません。困った時には安心して日本人会の方々に頼ってもらえればと思います。

6. 帰国後の進路について

卒業予定年月	2021年3月 (当初の卒業予定年月 2020年3月)
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input checked="" type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他(具体的に)
現在の状況および今後の予定・進路等	進路は留学前と変わらず未だ全く決めていません。でも今のところ、公務員ではなく一般就職にしようかなと考えています。
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	前述したように、私は後のことをあまり考えず勢いで留学した者です。私の留学前準備の至らなさを反面教師にしていなければ幸いです。

7. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等

書籍、サイト名	詳細(出版社、URL等)	コメント

8. 後輩へのメッセージ

私は留学に行く前、大気汚染大丈夫？と家族や友人達によく心配されたのですが、北京で10カ月ほど過ごした私は声を大にして言いたい。「北京、そこまで空気汚くないってよ」と。もちろん日本ほど毎日空気が綺麗とは言えないし、時に大気汚染指数が高くて窓から見える景色がかすんでいる日も無きにしも非ず。しかし北京の空気は数値的に見ても実際に長年北京で生活している人々の実感的にも年々綺麗になってきています。また、空気と共に汚いと言われがちなトイレも政府の改革によってだんだん綺麗なものと変わってきています。

ニュースなどで報道されることも確かに事実の一部分ですが、私は実際に現地で目にしたものやその時の自分の感情を、これから留学する皆さんに一番に大切にしてほしいです。多くの場所に出掛けて色々なものを見て、聞いて、感じて、多くの人に会って、話して、語学の勉強だけではなく人生をより豊かにしてくれる体験もたくさんしてほ

しいなと思っています。

9. 自由記述 (1,200 字程度)

・以下の点を踏まえ、記述して下さい。

- ①留学を終えての所感
- ②留学期間中、最も印象に残った体験・出来事
- ③留学の成果、留学前と比較して成長した点
- ④今回の留学での経験や成果を今後どのように活かしたいか（将来のキャリアパスも含めて）

「中国語をもっと学びたい！もっと中国のことが知りたい！」という衝動をもとに留学しましたが、北京での暮らしは自分の想像していた以上に充実した日々でした。

START プログラムで感動した中国語で中国語を学ぶという方法の授業を経験豊富なベテランの先生方の下毎日受けることができる。しかも同じ教室で一緒に中国語を勉強する仲間は国も年齢もバラバラ。授業ではもちろん中国語の文法や発音など語学の基礎も学びますが、お互いの国のことを紹介することも多く、クラスメートの発表する内容は私にとって全て新鮮でとても興味深かったです。

また、私はこれまで日本で生活してきた中で、大学卒業後は大学院生になるか就職活動などをするかして、どちらの道を進んでもいずれは企業かどこかで働く、この選択肢しかないのだと思い込んでいました。しかしクラスには、やはり大学生が一番多かったのですが、中には自国の大学院を卒業後中国語が勉強したくて中国へ留学に来た人、一度社会人を経験するも中国語の必要性を感じてから学ぼうと会社を辞めて中国にやってきた人、など様々な人がいました。「そうか、人生は決して一通りではないのだ」と新しい視点を与えてもらった気がしました。色んな国の「同世代」や「人生の先輩」に出会い共に学べた環境は、今後の進路をどうするか悩んでいた私にとってものすごく貴重なものでした。

生活する中で出会った一般の中国人の優しさも印象に残っています。大学内の食堂のとあるおじさんスタッフは、初めて出会った時から中国語の拙い私の話をニコニコ聞いてくれ、会う度に「僕は日本が大好きなんだ」と話しかけてくれました。冬休みに私が大きなスーツケースとバッグとリュックを抱え地下鉄駅の階段を下りていたら、見知らぬ人が「手伝うよ」とスーツケースを代わりに持ち運んでくれました。これらは私が感じた中国人の優しさエピソードのまだ一部でしかありません。留学前は、中国は反日の人が多いって聞くし…と家族に心配されましたが、実際に中国に行ってみてこのような体験をし、私には中国がより魅力的な国に思えました。

今回の留学を振り返ってみて、自分がとても積極的になったなと感じます。留学が始まって最初のうちは授業に出て中国語の勉強ができていればそれで満足でした。しかし、それなら広大で中国語の授業を受けているのと同じこと。それに、留学とは期間が決まっており、行ける場所もできることも時間も限られたものです。留学中に巡り合ったのは帰国したらもう二度と行けることのない、目にすることができない土地や人かもしれません。ならば機会のある今のうちにできるだけ多くの場所を訪れよう、色んなことをやってみよう、と考えを改め行動に移すようになりました。留学中に人生で初めて挑戦したことがいくつもあります。日本人会のTシャツのデザインを日本人会の方々と一緒に考え、それが実際に製品になった時の嬉しさは忘れられません。留学生が数多く参加する大学の行事で、日本人留学生は2カ月の猛練習を経てソーラン節を披露しました。ある授業の一環でショートムービーを作成することになり、グループのメンバーと協力し合い、私は初めての映像撮影や編集を担当しました。「せっかくの機会、何でもやってみよう」と考えられるようになったのは留学のおかげだと感じています。

私は中国で生活する中で、中国の持つ悠久の歴史や人々の活気、今も守り抜かれている歴史的遺産や大自然に触れ、より中国を面白くて飽きない国だと感じました。日本には私の家族のようにまだまだ中国に対してマイナスイメージを持っている人が少なくないと思います。今後私は、そのような日本人の中国に対する考えを改めてもらえるような、より中国に対して興味を持ってもらえるような情報発信や仕事ができたらいいなと思っています。

- 写真を2~3枚程度、貼り付けてください（写真1枚当たりの容量は、500KB以下に縮小して下さい）。



←1学期目のクラスは本当に仲が良く、みんなとの出会いは一生の宝物だと思っています。

↓冬休みに哈爾濱へのツアー旅行に参加しました。歩くだけでまっけが凍ります。さすが冬は日中でも氷点下20度が当たり前の世界。



←筆型スポンジで書道作品や絵画作品を描いている人々の姿を北京の公園などでたくさん見かけました。作品の技術の高さももちろんのこと、彼らが芸術家ではなく一般のおじいちゃんやおばあちゃんということにも驚き。



注1) 報告書およびその内容は、留学希望者への情報提供のため、HUSA ホームページおよび広島大学ホームページへの掲載、事務室での閲覧や大学の留学情報案内の作成のために利用させていただきます（氏名及び学生番号については、非公開とします）。ただし、公開にあたり不適切と判断された内容については、国際交流グループにて削除等させていただきますので予めご了承ください。